

2021年3月期 第3四半期決算説明における質疑応答の概要

(2021年2月2日(火)、東京)

Q.3Qまで営業利益も上方修正されて堅調な業績かと思うが、中計最終年度の来期は350億円という目標を立てており、目標への手ごたえを加工食品、低温物流中心に教えてほしい。

A.現時点では明確にお答えできないが、計画達成に向けて、次年度計画を組み立てている最中であり、グループ全体で350億円を目指していく。

加工食品と低温物流、それぞれあるが、加工食品ではニーズに合った商品提供ができる生産への投資や、低温物流では事業基盤強化への投資など、そういった検討に入っている。売上げの回復に重点を置き、6,000億円の大台は目線としたい。

Q.トップラインについて、来期6,000億円くらいは意識したいという事だが、売上げを5%くらい伸ばさなければならないことになる。新型コロナウイルスの影響で今期は伸び悩んだことを考慮してもアグレッシブと思うが、どのように伸ばしていくのか、トップラインのこだわりについて教えてほしい。特別何かをやるという訳では無く、今までの取り組みをしっかりとやっていくという理解で良いか。

A.低温物流事業も伸ばしていくし、一番回復させなければならないのは加工食品事業である。水産・畜産事業の素材品も外食でマイナスになっているが、加工食品事業と共同で加工品に取り組んでいくことも考えられる。

Q.元々中計では、最終年度の減価償却費は増加する前提になっていたと思うが、グループ全体では計画より増加しないという認識で良いか？

A.設備投資額は初年度270億円、今期見込が350億円で2年間の合計は620億円。

成長投資という点では、加工食品でタイのGFPTニチレイ社(以下、GFN)第2工場が11月に稼働、米飯の生産ラインも増強した。低温物流では、前期末に名古屋みなどDC、3月に本牧DC稼働(建替え)など、計画通り進めている。当初計画は3年間で約1,000億円であり、基盤強化や維持・保全などの投資が計画よりは若干遅れているが、来期の投資の内容によっては減価償却費が当初計画に近くなる可能性はある。

Q.来期350億円に向けて着実に進めているという事だが、当初の想定よりもリスクファクターとして出てきたことや、想定よりうまくいっているプラスファクターがあれば教えてほしい。また、コスト面、穀物価格や電力料のスポット価格が上昇しているので、来期への影響はどうか。

A. プラスに出ているのは低温物流で、これは計画値を上回っている。現状では、コロナの影響は上半期ぐらいまで続く仮定で検討しているところだが、その前提だとTC事業の好調は継続、反対に加工食品の業務用は厳しいということにはなるが、売上高6,000億円をけん引するのは加工食品である。現時点では、どのような施策を打つかという事まではお話しできないが、伸びている業態、個食や家庭用でも新たなニーズが出てきているので、そういった事をきちんと押さえて、ニーズのあるところに商品軸とルート軸でしっかり取り組んでいく。

原材料でのコストアップ要因について、今期は原料ごとにプラスマイナスがあり、トータルでは前期並みの見込みだが、来期については何とも言えない。電力料金は、今期はプラスに働いたが来期上がればその分は無くなる。

Q. 加工食品の業務用だが、上期の決算説明会では色々な対応策を示されていて、例えばCVS向けであれば包装形態を変えていくなどあったが、取り組みの成果が少しずつ見えてきているのか、あるいは今後どうなっていくのか、今後の見通しも含めて業務用の売上の考え方を教えてほしい。

A. 業務用は色々取り組んでいるところで、中々すぐに成果は難しいが、一番大きい惣菜向けは、有名店監修品などが計画通り進捗している。包装形態の工夫も試行錯誤しながら行っており、今後も引き続き提案していく。

Q. 加工食品の米国事業について、イノバジアン・クイジーン社（以下、ICE社）は、3Q単独で21%増収という事だが、利益へのインパクトはどれくらいあるのか。関係会社の業績改善で13億円というお話があったが、どれくらいがICEの効果なのか教えてほしい。また、来期以降の考え方として、北米の冷凍食品のマーケットは非常に強いと思っているが、このモメンタムが続くと考えて良いのか。

A. 3Q累計の「関係会社の業績影響額」として大体13億円の増益となっているが、ICEが多く残りはタイである。

来期も需要は堅調と思うが今期相当伸びているのでハードルは高い。家庭用が落ち着いた場合は業務用の伸びでカバーしていく。

Q. 海外売上高でGFNの売上げが落ちているが、どのような理由なのか。業績へのインパクトはあるのか。

A. P6のグラフは、GFNのグループ外への売上高を示しており、主に副産物のタイ国内向けの販売である。処理羽数の減少が主な要因であり損益に大きな影響は無い。

（注：GFNは日本向けの加工品がメインで、この分は連結消去されるため、GFNの売上高に含まれていない。）

Q.低温物流事業は、中計最終年度の利益を既に達成しており、利益率が当初の想定よりも上がっているという事だと思うが、何によってマージンが上がっているのか。また、元々の中計ストーリーでは、今期に大型投資が終わり最終年度に13億円くらい増益になる計画だったと思うが、この考え方に変更は無いか。

A.プラス要因の一つはTC事業が予想以上に伸びたこと、もう一つは全セグメントにも共通するが経費マネジメントを徹底したこと、これらが計画以上に利益が出て利益率が上昇した要因である。

次年度は、3月に大型センターが稼働するので償却負担もかかってくるが、貨物の最適配置や冷蔵共配の取り組みを進めていく。共配の成果は少し時間を要するかもしれないが、将来的にはこの部分でシェアを取っていきたい。色々なメーカーが共同すれば人手不足や環境問題などの解決にも繋がる。

以上